

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
26-39	中 学 校	技術・家庭	技術・家庭 (技術分野)	第1～3学年
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
9 開隆堂	技術 726	技術・家庭 (技術分野)		

1. 編修の趣旨及び留意点

① 編修の趣旨

教育基本法の趣旨を踏まえた上で、下記のような趣旨のもとに編修を行った。

- ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を豊富に設定し、その活動を通して、生徒が自立して主体的な生活を営むために必要とされる基礎的・基本的な知識および技術を習得できるように編修する。
- ものづくりを行う際には、科学的な知識などを踏まえて計画・設計し、身体的な技能などを用いて具体的な物が創造できるように編修する。
- 基礎的・基本的な知識および技術の習得を通して、社会や環境と技術とのかかわりについて理解を深め、環境の保全に寄与する態度を養えるように編修する。
- 学習活動では、創造・工夫する力、他者とのかかわる力、知的財産を尊重する態度、技術にかかわる倫理観、緻密さへのこだわり、忍耐強さなどの育成が図れるように編修する。
- 生活上において生じる課題に対して、自分なりに判断をし、工夫・創造して課題を解決することができる問題解決能力を育めるように編修する。
- 学習を通して身に付けた基礎的・基本的な知識および技術と、社会や環境と技術とのかかわりについての理解に基づいて、技術の在り方や活用の仕方などに対して客観的に判断・評価し、主体的に活用しようとする態度が育めるように編修する。
- 我が国における技術に関する伝統・文化や歴史を知り、我が国を愛する態度を育めるように編修する。また、技術に関する職業や生活との関連を示し、勤労を重んずる態度を養えるように編修する。

② 留意点

上記の編修の趣旨をもとに、下記のような点に留意して編修を行った。

- 基礎的・基本的な内容が確実に習得できるように、内容を精選し的確な記述をする。
- 紙面のレイアウトやデザイン、記述のしかたについて、見やすく、読みやすく、わかりやすく、使いやすいものとなるようにする。

- 学習項目ごとに目標が明確にわかるようにし、かつ、大きな学習のまとまりの最後には、学習を振り返る場面を設けて、生徒が主体的に学習に取り組めるよう構成する。
- 学んだ知識や技術が生活に生かされるように、学習の展開やまとめを工夫する。
- 生徒が興味・関心をもって学習にのぞめるように、学習意欲を高められる写真やイラスト、図表、コラムなどを多く用いる。
- より多くの実践的・体験的な学習活動や実践例を掲載し、状況に応じた学習活動が選べるように工夫する。

2. 編修の基本方針

教育基本法の第2条に示される教育の目標を達成するために、技術分野の編修基本方針を以下のように設定した。

- 幅広い知識と教養の基盤となる、技術分野の基礎的・基本的な知識や技能を、確実に習得できるようにする。
- 生活の中の真理を追究できるようになるために、科学的な根拠をもとに、技術を理解・習得できるようにする。
- 「自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動する」問題解決的学習を通して、創造性や自主性及び自立性を養うことができるようにする。
- 家族や友人、地域の人たちとの触れ合いやかかわりを通して、感謝の気持ち、自分や他者の尊重、男女の平等、家庭や地域への協力などの態度が育めるようにする。
- さまざまな技術に関する職業の理解を通して、職業観・勤労観を育み、勤労を重んずる態度を養えるようにする。
- 技術と社会・環境とのかかわりの理解を通して、生命や自然への敬意、環境保全に寄与する態度、他者や自然と共生する態度を養えるようにする。
- 日本の伝統的な技術を知り、先人の知恵や技能が日本の文化を支え、発展させてきたことを理解することで、日本の伝統と文化のすばらしさを理解し、自らの生活の中で継承・発展できるようにする。

3. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	箇所（頁）
教科書全体を通して	基礎的・基本的な知識や技能が、過不足なく、確実に習得できるようにした。（第1号）	すべての頁
	イラストや写真などにおいては、男女の平等などに留意した。（第3号）	すべてのイラスト・写真

ガイダンス 生活や社会における技術の役割	技術に関する職業を取り上げ、勤労観を養えるようにした。(第2号)	前見返し1
	ものづくり活動全体を通して、知的財産を尊重し、活用する態度を養えるようにした。(第2号)	18～19
	随所に環境を保全する技術、自然と共生する技術の考え方を示し、環境の保全に寄与する態度を養えるようにした。(第4号)	7, 12～13
	日本の伝統的な技術について取り上げ、先人への敬意、日本の伝統と文化のすばらしさが理解できるようにした。(第5号)	前見返し1, 7, 8～9, 13, 18～19
	日本の伝統的な技術や、日本で生まれた技術、他者や他国の人々との共生という考えを取り上げた。(第5号)	6～9, 10～13
A 材料と加工に関する技術	科学的な根拠やしくみの理解をもとに、技術を理解・習得できるようにした。(第1号)	26～33, 56, 61,
	実習例については、工夫し、創造する態度を育めるように、工夫の観点を掲載した。(第2号)	47～52
	さまざまな場面で、協力を重んずる態度、自他の敬愛、男女の平等などを養えるようにした。(第3号)	23, 58
	技術の評価・活用を通して、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるようにした。(第3号)	84～89, 91
	随所に環境を保全する技術、自然と共生する技術の考え方を示し、環境の保全に寄与する態度を養えるようにした。(第4号)	23, 33, 86, 91
	技術による障がいがある人たちなどとの共生の視点を取り上げた。(第4号)	23
	日本の伝統的な技術について取り上げ、先人への敬意、日本の伝統と文化のすばらしさが理解できるようにした。(第5号)	20～21, 61
B エネルギー変換に関する技術	科学的な根拠やしくみの理解をもとに、技術を理解・習得できるようにした。(第1号)	97, 99, 104～107, 110～111
	実習例については、工夫し、創造する態度を育めるように、工夫の観点を掲載した。(第2号)	124～129
	さまざまな場面で、協力を重んずる態度、自他の敬愛、男女の平等などを養えるようにした。(第3号)	123
	技術の評価・活用を通して、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるようにした。(第3号)	130～133, 135
	随所に環境を保全する技術、自然と共生する技術の考え方を示し、環境の保全に寄与する態度を養えるようにした。(第4号)	130～131, 135
	日本の伝統的な技術について取り上げ、先人への敬意、日本の伝統と文化のすばらしさが理解できるようにした。(第5号)	92～93

C 生物育成に関する技術	実習例については、工夫し、創造する態度を育めるように、工夫の観点を掲載した。(第2号)	160～165
	技術の評価・活用を通して、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるようにした。(第3号)	170～173, 175
	随所に環境を保全する技術、自然と共生する技術の考え方を示し、環境の保全に寄与する態度を養えるようにした。(第4号)	142～143, 156, 159, 166, 168, 170～173
	生命の尊さについて記述した。(第4号)	140～141, 173
	日本の伝統的な技術について取り上げ、先人への敬意、日本の伝統と文化のすばらしさが理解できるようにした。(第5号)	136～137, 171, 172
D 情報に関する技術	ものづくり活動全体を通して、知的財産を尊重し、活用する態度を養えるようにした。(第2号)	200
	実習例については、工夫し、創造する態度を育めるように、工夫の観点を掲載した。(第2号)	218～221, 234～237
	技術に関する職業を取り上げ、勤労観を養えるようにした。(第2号)	241
	さまざま場面で、協力を重んずる態度、自他の敬愛、男女の平等などを養えるようにした。(第3号)	217
	技術の評価・活用を通して、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるようにした。(第3号)	238～240, 243
	随所に環境を保全する技術、自然と共生する技術の考え方を示し、環境の保全に寄与する態度を養えるようにした。(第4号)	178, 239
	技術による障がいがある人たちなどとの共生の視点を取り上げた。(第4号)	216, 223
日本の伝統的な技術について取り上げ、先人への敬意、日本の伝統と文化のすばらしさが理解できるようにした。(第5号)	176～177	
進んで技術进行评估し生活をよりよくする～技術分野の出口～	技術に関する職業を取り上げ、勤労観を養えるようにした。(第2号)	245
	技術の評価・活用を通して、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるようにした。(第3号)	244～247
	随所に環境を保全する技術、自然と共生する技術の考え方を示し、環境の保全に寄与する態度を養えるようにした。(第4号)	248～249

4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

教育基本法第5条に示される義務教育の目的や学校教育法第21条に示される義務教育の目標などを達成するために、編修上特に意を用いた点や特色は、以下の通りである。

- 教科書の最初の内容として、ガイダンス的な内容である「生活や社会における技術の役割」を設定し、技術分野の学習に対する意識付け、興味・関心が引き出せるようにするとともに、勤労を重んずる態度を養えるように編修した。
- ガイダンスでは先人たちの智恵や技術の素晴らしさについて知るとともに、各内容の扉では日本と世界における主な技術の歴史を取り上げることで、我が国と外国の歴史を知り、我が国を愛し、他国を尊重する態度を養えるようにした。
- A, B, C, Dの各内容の最後および全体の学習の最後に、技術を評価し活用できる能力と態度が育成できる学習項目を設定することで、主体的に社会に参画し、その発展に寄与できる態度を養えるようにした。
- 技術と産業とのかかわりについて理解が深まるように、随所に具体例を掲載して編修を行った。
- 勤労に携わる人へのインタビューを掲載することで、職業に関する理解を深めるとともに、勤労を重んずる態度を養えるようにした。
- 環境に関する記述部分には「環境マーク」を付して、環境についての意識を高められるようにし、循環型社会に対応していく態度が身につくように配慮した。
- 製作品を図や表を用いてわかりやすく表現するとともに、成果の発表や自己評価、相互評価を行うなどの言語活動を充実させ、言語能力を養えるように配慮した。
- 科学的な根拠を伴い技術を理解できるように、適宜「実験」や「調べ学習」を取り上げた。
- 作業中の事故防止を重視し、「安全」に関するマークを用いたり、ガイダンスの内容に安全に関する学習項目を設けたりすることで、安全に関する注意を喚起できるように編修をした。
- 情報を適切に活用できるように、コンピュータや情報通信ネットワークのしくみなどを科学的な根拠を元に理解できるようにするとともに、情報モラルに関する内容も充実を図った。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
26-39	中 学 校	技術・家庭	技術・家庭 (技術分野)	第1～3学年
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
9 開隆堂	技術 726	技術・家庭 (技術分野)		

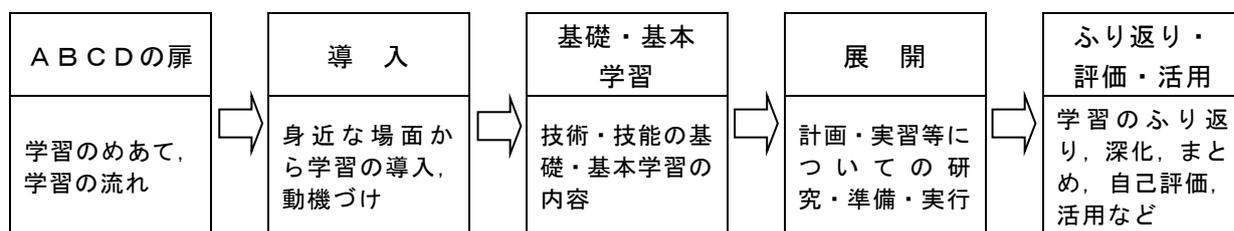
1. 編修上特に意を用いた点や特色

<< 本教科書の基本構成 >>

★技術分野で設定されている「A材料と加工に関する技術」「Bエネルギー変換に関する技術」「C生物育成に関する技術」「D情報に関する技術」の4つの内容に加えて、中学校での3年間の学習の見通しを立てさせるガイダンス的な内容を教科書の最初に、技術分野全体の学習を終えてから全体を通した出口となる学習項目を教科書の最後に配置し、全部で6つの学習内容と、巻末資料とで編修しました。

頁	内 容
2～ 19	ガイダンス
20～ 91	A 材料と加工に関する技術
92～135	B エネルギー変換に関する技術
136～175	C 生物育成に関する技術
176～243	D 情報に関する技術
244～249	進んで技術を評価し生活をよりよくする ～技術分野の出口～
250～261	巻末資料 コンピュータの基本操作

★A, B, C, Dの各内容については、学習の意欲づけや動機づけ、基礎・基本の確実な習得、学習内容の生活での評価・活用を重視して、次のように組織しました。



<< 基礎・基本の重視 >>

★本文の記述は、基礎・基本と参考・発展等の区分を明確にし、学習内容の精選と重点化が図れるようにしました。特に基礎・基本となる内容については、理解に必要な内容を的確に記述することを心がけ、文体も敬体表記にして、親しみを持って学習できるようにしました。

★基礎・基本的内容の理解を助けるために、分かりやすい図版・イラスト・写真を多数掲載し、必要性のあるものについては、生徒の目線で撮影したり描写したりしました。

★「実習例」は基本となるものを中心に、参考・応用的なものまで多様な例を取り上げました。

<< 「学習の目標」→「ふり返り」の流れと「まとめ（自己評価）」の工夫 >>

- ★各学習項目の冒頭には「学習の目標」を記述し、学習の節目には「ふり返り」を設けることにより、反省・自己評価をして学習内容の定着を図ることができるように配慮しました。
- ★A B C Dの各内容の終わりの頁には「学習のまとめ」を設け、「学習をふり返ろう」で学習のまとめや反省・自己評価ができるように配慮し、「生活に生かそう」では学んだことを生活の場で活用できるようにするための具体例やヒントなどを示しました。

<< 循環型社会への対応——環境教育の重視 >>

- ★ガイダンスをはじめ、本文の随所に、技術と環境との関わりについての記述をおこない、循環型社会や持続可能な社会について考えながら学べるように配慮しました。また、環境に関する記述部分には「環境マーク」を付して、環境についての意識を高められるようにし、循環型社会に対応していく態度が身につくように配慮しました。

<< 技術の発達と伝統文化の取り扱いの工夫 >>

- ★ガイダンスでは「今も生きる先人の技術」や「活躍している日本の伝統技術」を取り上げ、各内容のトビラでは「技術の歴史年表」を掲載して、先人たちの智慧や技術の素晴らしさ、技術の発達について知ることができるようにしました。

<< 安全教育への配慮 >>

- ★作業中の事故防止を重視し、ガイダンスでは見開きの頁を、本文各所の作業場面には「安全マーク」を付して、それぞれの作業に即した注意点を記述しました。

<< 情報モラルの重視 >>

- ★生徒に確実に教えた「情報モラル」や「情報セキュリティ」については、一か所で12頁を割いて分かりやすく整理してまとめるとともに、本文の関連各所には「情報モラルリンクマーク」を付して、関連頁を参照できるようにしました。

<< 造本・体裁上の工夫 >>

- ★「リンクマーク」を用いて、他の内容や家庭分野とも関連づけて学習できるようにしました。
- ★各頁下には「豆知識」を設け、知っておくと便利な情報や、面白情報などを掲載しました。
- ★内容のまとめりごとに基本となる色を変え、奇数頁には「爪見出し」を設けて頁を開きやすくするとともに、全体のどの部分を学習しているかが常に分かるように工夫しました。
- ★カラーバリアフリーデザインに配慮するとともに、環境保全の一環として、印刷インキに環境にやさしい大豆油インキを採用し、用紙は再生紙を使用しています。

2. 対照表

図書の構成・内容			学習指導要領 の内容	箇所 (頁)	配当 時数
大項目 名	中項目名	小項目名			
さあ、技術(Technology)の扉を開こう!			A(1)ア	前見返し1~2	-
もくじ			A(1)ア	前見返し3, 1	-

会における技術の役割	ガイド 生活や社	1 技術分野で学ぶこと	①学習のつながりを考えて学ぼう	-	4~5	0.5
		2 技術を見つけよう	①さまざまな技術	A(1)ア	6~7	2
			②技術ってすばらしい	A(1)ア	8~9	
		3 技術とわたしたちの生活	①技術の進展と生活・産業	A(1)イ	10~11	1
②技術と環境	A(1)イ			12~13		
4 学習の見通しをもとう	①学習の進め方と作業の安全	-	14~17	0.5		
		②技術分野の学習にあたって	A(1)ア		18~19	
A 材料と加工に関する技術	1 ものづくりの視点と進め方	①製品の工夫と技術の進歩	A(1)ア, A(3)	22~23	1	
		②ものづくりの進め方	A(1)ア, A(3)	24~25		
	2 材料	①さまざまな材料	A(2)ア	26	4	
		②材料の特徴	A(2)ア	27~32		
		③材料と環境とのかかわり	A(1)イ, A(2)ア	33		
	3 設計	①使用目的と製作品の決定	A(3)ア, イ	34	7	
		②機能の検討	A(3)ア	35		
		③構造の工夫	A(3)ア	36		
		④使用する材料の選択	A(2)ア	37		
		⑤加工方法の検討	A(2)イ	38~39		
		⑥接合方法の検討	A(2)イ	40		
		⑦仕上げ方法の検討	A(2)イ	41		
		⑧製図	A(3)イ	42~46		
	4 実習例	実習例1 小物棚つきラック	A(3)ア, イ, ウ	47	-	
		実習例2 写真立てつきメモホルダ	A(3)ア, イ, ウ	48		
		実習例3 いす型飾り台	A(3)ア, イ, ウ	49		
		実習例4 ペン立て・リモコンラック	A(3)ア, イ, ウ	50		
		実習例5 テープカッターつきブックエンド	A(3)ア, イ, ウ	50		
		実習例6 LEDライトつきPCラック	A(3)ア, イ, ウ	51		
		実習例7 プランターケース	A(3)ア, イ, ウ	52		
		実習例8 ステーションナリーボックス	A(3)ア, イ, ウ	52		
	5 木材による製作	①部品表と工程表	A(3)ウ	53	12	
		②けがき	A(3)ウ	54~55		
		③切断	A(3)ウ	56~59		
		④切削	A(3)ウ	60~63		
		⑤穴あけ・溝ほり	A(3)ウ	64~65		
⑥部品の検査と修正		A(3)ウ	66			
⑦組立て		A(3)ウ	67~69			
⑧組立ての検査と修正		A(3)ウ	70			
⑨表面と角の仕上げ		A(3)ウ	71~73			
6 金属・プラスチックによる製作	①部品表と工程表	A(3)ウ	74	-		
	②けがき	A(3)ウ	75			
	③切断・切削	A(3)ウ	76~77			
	④穴あけ・ねじ切り	A(3)ウ	78~79			
	⑤曲げ	A(3)ウ	80			
	⑥部品の検査と修正	A(3)ウ	81			
	⑦組立てと仕上げ	A(3)ウ	82~83			
7 材料と加工に関する技術の評価・活用	①社会・環境とのかかわり	A(2)ウ	84~85	1		
	②材料と加工に関する技術とわたしたち	A(2)ウ	86~87			
技術の具体的な評価・活用の方法を考えてみよう			A(2)ウ, B(1)ウ, C(1)イ, D(1)エ	88~89	-	
学習のまとめ			A(2)ウ	90	-	
探究 材料と加工に関する技術について考えよう			A(2)ウ	91	-	

B エネルギー変換に関する技術	1 わたしたちの生活とエネルギー変換	①エネルギーの利用	A(1)ア, B(1)ア	94~95	2
		②エネルギー資源	B(1)ア, ウ	96~97	
		③二次エネルギーの利用	B(1)ア	98~99	
		④エネルギーの変換と効率	B(1)ア, ウ	100~101	
	2 電気エネルギーの利用	①電気エネルギー	B(1)ア	102~103	2
		②熱・光・動力への変換と利用	B(1)ア	104~107	
	3 動力の利用	①動力伝達のしくみ	B(1)ア	108~109	2
		②運動を変化させるしくみ	B(1)ア	110~111	
	4 エネルギー変換の実際	①電気回路	B(1)イ	112~113	3
		②機械部品	B(1)ア, イ	114~115	
③機器の安全な利用		B(1)イ	116~117		
④機器の保守点検		B(1)ア, イ	118~121		
5 製作品の構想と設計・製作	①製作品の設計と製作	B(2)ア	122~123	10	
	実習例1 4足歩行ロボット	B(2)ア, イ	124		
	実習例2 3モーターロボットカー	B(2)ア, イ	125		
	実習例3 非常時に役立つものを考えよう	B(2)ア, イ	126~127		
	実習例4 走馬灯ムーディーライト	B(2)ア, イ	128		
	実習例5 LEDキーライト	B(2)ア, イ	129		
6 エネルギー変換に関する技術の評価・活用	①社会・環境とのかかわり	B(1)ウ	130~131	1	
	②エネルギー変換に関する技術とわたしたち	B(1)ウ	132~133		
学習のまとめ		B(1)ウ	134	-	
探究 エネルギー変換に関する技術について考えよう		B(1)ウ	135	-	
C 生物育成に関する技術	1 わたしたちの生活と生物育成	①生物育成とは	A(1)ア, C(1)ア	138~139	1
		②作物や家畜などの特性と生物育成に関する技術	C(1)ア	140~141	
	2 生物の育成	①生物育成のサイクル	C(1)ア	142~143	1
		②生物の育成計画と記録	C(2)ア	144~145	
	3 作物の栽培	①栽培ごよみ	C(1)ア	146~147	7
		②栽培に適した環境	C(1)ア	148~149	
		③土壌の性質と施肥	C(1)ア	150~151	
		④たねまき, 間引き, 育苗と植えつけ(定植)	C(1)ア	152~153	
		⑤定植後の管理	C(1)ア	154~157	
		⑥収穫の時期と保存	C(1)ア	158	
		⑦収穫後の管理	C(1)ア	159	
	4 実習例	実習例1 トマト	C(2)ア	160	7
		実習例2 イネ	C(2)ア	161	
		実習例3 イチゴ	C(2)ア	162	
		実習例4 ダイコン	C(2)ア	163	
		実習例5 キュウリ	C(2)ア	164	
実習例6 リーフレタス		C(2)ア	164		
実習例7 キク		C(2)ア	165		
実習例8 バンジー(ビオラ)		C(2)ア	165		
5 動物の飼育	①動物の飼育に関する技術(乳牛の場合)	C(1)ア, (2)ア	166~167	1	
6 水産生物の栽培	①水産生物の栽培に関する技術	C(1)ア, (2)ア	168~169		
7 生物育成に関する技術の評価・活用	①社会・環境とのかかわり	C(1)イ	170~171	1	
	②生物育成に関する技術とわたしたち	C(1)イ	172~173		
学習のまとめ		C(1)イ	174	-	
探究 生物育成に関する技術について考えよう		C(1)イ	175	-	

D 情報に関する技術	1 情報とわたしたちの生活	①社会における情報に関する技術	A(1)ア, D(1)エ	178～179	1
		②情報に関する技術とその役割	A(1)ア, D(1)エ	180～181	
	2 情報通信ネットワークの利用	①情報を扱う機器の構成	D(1)ア	182～183	1.5
		②情報通信ネットワークの構成	D(1)イ	184～185	
		③情報を伝えるしくみ	D(1)イ	186～187	
		④インターネットの利用	D(1)イ	188～189	
	3 情報通信ネットワークと情報セキュリティ	①情報通信ネットワークの危険性	D(1)イ, ウ	190～191	2.5
		②情報セキュリティ	D(1)イ, ウ	192～195	
	4 情報モラルと知的財産	①利用するときのモラル	D(1)ウ	196～197	3
		②人権や個人情報の保護	D(1)ウ	198～199	
		③知的財産の保護	D(1)ウ	200～201	
	5 コンピュータと情報処理	①情報を処理するしくみ	D(1)ア	202～203	2
		②デジタル化の方法と情報の量	D(1)ア	204～205	
		③デジタル化した情報の特徴	D(1)ア	206～207	
	6 デジタル作品の設計と制作	①生活の中のメディア	D(2)ア	208～209	8
		②デジタル作品の構想	D(2)ア	210～211	
		③情報の収集と加工	D(2)イ	212～215	
		④作品の制作・発表	D(2)イ	216～217	
		実習例1 プレゼンテーション	D(2)ア, イ	218～219	
		実習例2 Webページ	D(2)ア, イ	220～221	
実習例3 動画作品		D(2)ア, イ	220～221		
7 プログラムによる計測・制御	①生活の中にある計測・制御	D(3)ア	222～223	8	
	②計測・制御のしくみ	D(3)ア	224～225		
	③情報処理の手順とプログラム	D(3)イ	226～229		
	④プログラムによる模型の制御	D(3)ア, イ	230～233		
	実習例1 ライントレースカー	D(3)ア, イ	234～235		
	実習例2 サッカーロボット	D(3)ア, イ	236～237		
	実習例3 プログラミングLEDライト	D(3)ア, イ	237		
8 情報に関する技術の評価・活用	①社会・環境とのかかわり	D(1)エ	238～239	1	
	②情報に関する技術とわたしたち	D(1)エ	240～241		
	学習のまとめ	D(1)エ	242	-	
	探究 情報に関する技術について考えよう	D(1)エ	243	-	
進んで技術の評価し生活をよりよくする～技術分野の出口～	①技術の評価する視点	A(2)ウ, B(1)ウ, C(1)イ, D(1)エ	244～245	1.5	
	②技術とわたしたちの未来	A(2)ウ, B(1)ウ, C(1)イ, D(1)エ	246～247		
	探究 持続可能な社会を築く	A(2)ウ, B(1)ウ, C(1)イ, D(1)エ	248～249		
巻末資料 コンピュータの基本操作		-	250～261	-	
技術分野の学習を終えて		A(2)ウ, B(1)ウ, C(1)イ, D(1)エ	後見返し1	-	
未来への夢をつなぐ「技術(Technology)」		A(1)ア	後見返し2～3	-	
			計	87.5	

編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
26-39	中 学 校	技術・家庭	技術・家庭 (技術分野)	第1～3学年
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
9 開隆堂	技術 726	技術・家庭 (技術分野)		

ページ	記 述	類 型	関連する学習指導要領の内容や 内容の取扱いに示す事項
105	LED (light emitting diode)	2	B(1)ア エネルギーの変換方法や力の伝達のしくみを知ること。
127	実習例3の参考作品例1 実習例3の参考作品例2	2	B(2)ア 製作品に必要な機能と構造を選択し、設計ができること。 B(2)イ 製作品の組立て・調整や電気回路の配線・点検ができること。
129	参考実習例 シークレットボックス	2	B(2)ア 製作品に必要な機能と構造を選択し、設計ができること。 B(2)イ 製作品の組立て・調整や電気回路の配線・点検ができること。

(発展的な学習内容の記述に係る総ページ数 3)

(「類型」欄の分類について)

- 1…学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容（隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む）とされている内容
- 2…学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容